

# TREE seminar

10月18日(木) 17:00~18:00

## 鳥類と液果との相互作用ネットワーク 鳥類の採食様式の多様性を組み入れる

理学部5号館2階 5209教室

講演者：吉川徹朗 Tetsuro Yoshikawa  
所属：東京大学大学院 農学生命科学研究科

### 要旨

果実食鳥は液果植物の種子散布者とされており、両者の関係は相利共生の典型とみなされている。しかし果実を食べる鳥類には、採食様式の異なるさまざまなタイプ(採食タイプ)があり、なかには種子を破壊するものもいる。つまり鳥類-液果の関係は、全体としてみると、共生関係だけでなく敵対関係も内包している。だが、このことはしばしば見過ごされてきた。

今回お話しする研究は、鳥類の多様な採食様式を考慮にいれて、鳥類-液果の相互作用系を再検討したものである。まず、エノキ属の2樹種に対して、種子食鳥イカルによる種子捕食がおよぼす影響を植物個体群スケールで評価した。3年間の調査の結果、イカルによる種子捕食が種子散布量を大きく制限することを見だし、また捕食量の樹種間・年間差とその規定要因について明らかにした。つぎに、地域スケールにおける鳥類-液果の種間相互作用ネットワークに着目し、鳥類採食タイプと液果に対する食性幅(dietary breadth)との関連を探った。ここでは神奈川県における市民モニタリングデータの分析からネットワークを再構成し、23種の鳥類の食性幅を定量化した。その結果、液果に対する食性幅のちがいの一部が採食タイプで規定されていることを示した。

以上の結果から、鳥類-液果間の相互作用の全体像について考えてみたいと思う。

尚、セミナー終了後に懇親会も御座いますので、そちらにもご参加ください。